

# 医科学専攻博士課程 コースツリー

## 博士課程DP

本課程に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得し、以下の能力・資質を習得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、博士（医学）の学位を授与します。高度臨床医育成コース及びがん専門医療人育成コースの場合は、所属分野の専門医（又は認定医）の取得が必要となります。

- 1 自己の研究に関連する分野を中心にした医学、医療、医科学の高度で幅広い専門的知識を習得している。
- 2 医学、医療、医科学に対する社会的ニーズを踏まえた学術的意義、創造性等を有する研究を、高い倫理性を備え、社会への責任感を持って遂行できる。
- 3 国際的視野とコミュニケーション能力を有し、自己の研究成果を国内外の学会等で発表し、学術雑誌等において当該研究分野または社会に貢献する論文を執筆できる。

研究者育成コース 高度臨床医育成コース

総合診療・地域医療コース

がん専門医療人育成コース

## 博士学位論文

### 選択科目

細胞生物学 I	分子機能学 I
細胞生物学 II	分子機能学 II
組織・器官系の構造と機能 I	細胞機能学 I
組織・器官系の構造と機能 II	細胞機能学 II
組織・器官系の構造と機能 III	細胞内情報制御学 I
器官系の病態構造 I	細胞内情報制御学 II
器官系の病態構造 II	神経科学 I
器官系の病態構造 III	神経科学 II
器官系の病態構造 IV	神経科学 III
発生生物学 I	神経科学 IV
発生生物学 II	細胞間情報伝達学 I
1 先天異常 I	細胞間情報伝達学 II
4 先天異常 II	細胞間情報伝達学 III
老化 I	内分泌・代謝学 I
老化 II	内分泌・代謝学 II
老化 III	内分泌・代謝学 III
発癌 I	生体システム学 I
発癌 II	生体システム学 II
腫瘍生物学 I	生体機能測定学 I
腫瘍生物学 II	生体機能測定学 II
腫瘍生物学 III	生体機能測定学 III
腫瘍生物学 IV	分子病態学 I
臨床腫瘍学 I	分子病態学 II
臨床腫瘍学 II	分子病態学 III
臨床腫瘍学 III	臓器病態学 I
臨床腫瘍学 IV	臓器病態学 II
臨床腫瘍学 V	臓器病態学 III
臨床腫瘍学 VI	生体病態学 I
地域がん治療学	生体病態学 II
口腔腫瘍学	生体病態学 III
がん医療社会学	生体病態学 IV
緩和ケア学	薬物動態学 I
	薬物動態学 II

基礎免疫学 I
基礎免疫学 II
臨床免疫学 I
臨床免疫学 II
移植免疫学 I
移植免疫学 II
感染症学 I
感染症学 II
感染症学 III
細胞間相互作用 I
中毒学 I
中毒学 II
個人識別学 I
個人識別学 II
環境医学 I
環境医学 II
医学・医療情報学 I
医学・医療情報学 II
総合診療・地域医療学
腫瘍免疫学 I
腫瘍免疫学 II
Sustainability science and SDGs
Science for a sustainable society and future Earth
特別実践研究（PBL型授業）

選択科目
発癌 I
発癌 II
腫瘍生物学 I
腫瘍生物学 II
腫瘍生物学 III
腫瘍生物学 IV
臨床腫瘍学 I
臨床腫瘍学 II
臨床腫瘍学 III
臨床腫瘍学 IV
臨床腫瘍学 V
臨床腫瘍学 VI
地域がん治療学
口腔腫瘍学
がん医療社会学
緩和ケア
薬物動態学 I
薬物動態学 II
腫瘍免疫学 I
腫瘍免疫学 II
Sustainability science and SDGs
Science for a sustainable society and future Earth
特別実践研究（PBL型授業）

### 必修科目

- 総合診療学 I
- 総合診療学 II
- 医療疫学・統計学

選択必修科目 基礎医科学 応用医科学 臨床医科学 臨床腫瘍学総論

必修科目 医学総合研究特論 I 医学総合研究特論 II

### 選択科目

理工農連携プログラム科目（医学系・総合理工学・生物資源科学・連合農学研究科連携科目）  
 医療のための光工学  
 機能性物質・食品の医療応用と環境影響  
 医生物学への数学・情報科学の応用  
 臨工医学と社会・環境医学への高度情報学の応用  
 放射線の医療応用と生物材料学  
 知的財産と社会連携  
 環境医学への影響 II

1  
4  
年